

今週のメニュー

[トピックス](#)

“エコプロダクツ2009”開催せまる！
- 塩ビブース出展に向けて -

[随想](#)

古代ヤマトの遠景（42） - 【前方後円墳】（3） -

信越化学工業（株） 木下 清隆

[お知らせ](#)

「エコプロダクツ2009」出展のご案内

[編集後記](#)

トピックス

“エコプロダクツ2009”開催せまる！
- 塩ビブース出展に向けて -

国内最大級の環境展示会エコプロダクツ2009（（社）産業環境管理協会、日本経済新聞社主催）が来週12月10日から12日までの3日間、東京ビッグサイト東ホールで開催されます。今年の出展者数は721社・団体、入場者数は昨年を上回る約18万人が見込まれています。「問い直せ、日本の力 ソーシャルパワー元年」と大きく書かれたポスター広告や開催をお知らせするテレビコマーシャルを良く見かけるようになりましたので読者の皆様の中にもきっとご覧になった方がおられるのではないかと思います。

エコプロダクツ展は、1999年にスタートし、今年でまる10年になりますが、出展者数、入場者数ともに年々増加しており、環境関連の展示会としては5月に開催されるNEW環境展とほぼ同じ規模に成長して参りました。実行委員長である東京大学教授山本良一先生には、一昨年、[JPEC（塩化ビニル環境対策協議会）主催の講演会で地球温暖化をテーマにご講演](#)頂きましたが、その際、エコプロダクツ展は、近い将来、入場者が100万人を超え、東京モーターショーを凌ぐ展示会にしたいとおっしゃっておられたのが印象的でした。また、環境政策に関する今後の指針として、国としての明確な目標設定、環境情報の可視化、環境の付加価値に正当なお金をつけることを提案しておられましたが、ここに来てこうした考え方が現実のものとなって動き始



昨年のVECブース

国としての明確な目標設定、環境情報の可視化、環境の付加価値に正当なお金をつけることを提案しておられましたが、ここに来てこうした考え方が現実のものとなって動き始

めた感があります。

ところで、弊協会がJPECと共同でエコプロダクツ展への出展を再開するきっかけとなったのは、将に山本先生のこのご講演であった訳ですが、一昨年は手探り状態の中からスタートし、身の回りの塩ビ製品を知って頂くために「塩ビを知ろう」をテーマに、昨年はさらに塩ビへの理解を深めて頂くために、省資源、省エネルギーで長寿命な素材「塩ビを学ぼう」をテーマといたしました。今年は3年目の括りとして、LCAに優れ真にエコな素材である塩ビをもっと利用して頂くために、「塩ビを知って、学んで、使おう」をテーマにいたしました。

折しも、住宅へのエコポイントが検討され、これまで普及活動を粘り強く続けてきた樹脂窓にフォローの風が吹こうとしています。長寿命でCO2削減に貢献できる塩ビ建材は、エコマークやグリーン調達の対象品目に指定されているだけでなく、新しいリサイクル技術やシステムが弊協会のリサイクル支援制度のもとに立ち上がろうとしています。この支援制度のテーマの一つである「フラクタル日除け」は、[科学未来館での実証試験](#)をこの欄でもご紹介しましたが、エコプロダクツ展のイベントでもある「eco japan cup 2009」に応募し、最終選考まで残ったことは輝かしい成果のひとつと言えます。塩ビブースに展示しますので是非、実物をご覧頂きたいと思います。

今回は、こうしたリサイクルに関する取り組みを、特設コーナーを設けて分かり易く展示して参りますが、合わせて、私たちの生活や住いの環境をより豊かで健康なものとする新しい塩ビ製品についても積極的に紹介して参ります。また、小・中学生、ファミリー層に焦点を当て、今話題の人気活弁士、坂本頼光さんのステージ(電動紙芝居による環境学習)も準備しておりますので、お誘いあわせの上、是非、塩ビブース(東5ホール、No.5042)にご来場頂きますようお願い申し上げます。詳しくは、下記の案内をご覧下さい。(了)



活弁士、坂本頼光さん

「エコプロダクツ2009」のホームページ：<http://eco-pro.com/>
[「お知らせ」](#)

随想

古代ヤマトの遠景(42) - 【前方後円墳】(3) -

信越化学工業(株) 木下 清隆

前回の最後に掲げた幾つかの疑問の中に被葬者は誰かと云うのがあったが、被葬者は判らないが実態のようだ。「現 天皇陵」として知られているのは、記紀の各天皇の記述の最後にその埋葬場所が記述されている場合があり、それがそのまま正しいとして受け継がれているからである。ところが、記紀が編纂された時代を7~8世紀とすると、200~300年も昔に築造された古墳と埋葬者について記述していることになる。そんな大昔の正確な記録が残されているとは考えられず、記紀の中で偉大な王として記述した天皇には、大き

な墳墓を割り当てたといったことは十分に考えられる。従って、その記述は現代の文献学的或いは考古学的知見に合致しなくなってくる。このような事情から、被葬者は誰か判らないと云う結論が導かれることになる。その上、宮内省は陵墓の発掘調査を頑なに拒んでいるため、我国の古代史は混沌としたままほとんど進展を見ない状況が続いている。

古代史解明の唯一無二の文献としては「古事記」と「日本書紀」くらいしか無いが、古代学はこの内容をほとんど信用していない。その理由は本稿でも幾つか触れたように、論理的に矛盾するところが多すぎると言う事である。専門的なレベルで見れば、星の数ほど問題点があるに違いない。それではこれに代わる何か新しい古代史像が描き出されているかと言えば、これも定説としては存在していない。それは考古学的裏付けが無い限り、定説とは成り得ないからである。ところが、考古学は、宮内省によって金縛りにされている。地方から時々素晴らしい発掘があるにしても、畿内の現天皇陵を発掘することによって得られるであろう成果とは比べ物にならないはずである。このような古代史の膠着状態から、宮内省は諸天皇の事跡、陵墓等の由来を古事記・日本書紀に基づいて解釈している。そして、伊勢神宮を始とする我国の主要神社も基本的には宮内省と同じ立場である。

要するに、宮内省・文献学・考古学は三すくみになっているのである。従って、巨大前方後円墳の被葬者は当面判らないという状況が続くことになる。

しかし、はっきりしていることはある。それは、巨大前方後円墳の幾つかはその時代の倭王の墓と考えて間違いないだろうと言うことである。このような認識に立つなら明確なヤマト国家像の想定が可能となってくる。それは畿内に強大な権力を有する倭王が居て、諸国の首長たちはこの王にひれ伏すという図式である。首長から自分の前方後円墳を造りたいとの要請が出されると、その規模等について意見を述べて許可する。或いは勲功に対する褒章として前方後円墳の築造を許すといった国家体制である。このようなイメージの体制を著名な考古学者は「前方後円墳体制」と命名した。この説は専門家の間では未だ検討の余地があるようであるが、古墳時代の国家体制の有り様としては重要な指摘といえよう。

このような国家体制を前提とすると、先に説明した三角縁神獣鏡問題についても一つの結論が得られることになる。それは、卑弥呼の時代にこの鏡が全国各地に配布されたのは、ヤマト国家の体制維持に必要であったとの解釈である。そこには、ヤマト国家は強大な権力を有していた、しかし、その権力維持にはそれなりの努力が必要であった、との認識が存在していることになる。

巨大前方後円墳の存在と、大量の三角縁神獣鏡の存在とから見えてくる古代国家像には、その中心に大きな権力を有する倭王の存在が欠かせない。要するに倭王を中心とするヤマ



はじ
土師ニサンザイ古墳
(濠の周囲が整備されている)



大仙陵古墳
(現仁徳天皇陵)

ト国家が存在し、その中心地は、当初は大和平野内にあったものが、何らかの理由で大阪平野へ移った、と描像されることになる。この場合、大和平野に在った勢力が、大阪平野に移ったとの解釈と、大阪平野の勢力が大和の勢力を滅ぼしたとの解釈があるが、ここではこれ以上この問題には深入りしないことにする。

現在の古代学、特に考古学は卑弥呼以降の古代史を概ね以上のように解釈している。前方後円墳と三角縁神獣鏡の存在を無理なくつなぎ合わせるとするなら、これが一番自然な解釈だからである。

ところが、本稿ではこれまでに述べてきたように、古代倭王は諸国の首長に推戴された出雲の王に過ぎず、その王が率いるヤマト国家がそのような力を有するはずが無いとの前提に立っている。このような立場から、「ヤマト国家」という言葉を避け「ヤマト政権」と表記してきているのもこのような理由からである。

古代学は、2世紀の「倭国大乱」の後、各地の首長たちが連合し「新生倭国連合」といった組織を作り上げた、との解釈を打ち出し、これが古代倭国についての主流となる考え方となっている。ここから話が飛躍するのであるが、首長達が創設した倭国連合の拠点が大和に置かれ、そこが前方後円墳・三角縁神獣鏡等から見て、一大権力の中枢になったはずだ、との国家像に結び付けられることになった。最近、^{まきむく}纏向遺跡から大きな宮殿の跡と見られるものが発掘され話題となっているが、このような宮殿こそ当時の王権の大きさを示すものだとの論議に発展しそうである。しかし、ことはそう簡単ではない。前半の倭国連合の設立まではいい、しかし、その仕組みがいきなり巨大権力の中心になるとの考え方には大きな飛躍があるからである。(つづく)

前回の「古代ヤマトの遠景」(41)【前方後円墳】(2)は、下記からご覧頂けます。

http://www.vec.gr.jp/mag/247/mag_247.pdf

お知らせ

「エコプロダクツ2009」出展のご案内

「エコプロダクツ2009」が下記の要領で開催されます。

塩化ビニル環境対策協議会/塩ビ工業・環境協会にて、「身近なエコ素材、塩ビを知って、学んで、使おう!」をコンセプトとして出展いたします。

塩ビ製品展示、パネル説明、ステージ・デモンストレーションなどで、塩ビへのご理解を深めていただきたいと思います。

- ・日 時 : 2009年12月10日(木)~12日(土)
10:00~18:00(最終日のみ17:00まで)
- ・場 所 : 東京ビッグサイト(東1~6ホール)
(VEC小間番号:東5ホール、5042)
- ・主 催 : (社)産業環境管理協会、日本経済新聞社
- ・入場料 : 無料
- ・「エコプロダクツ2009」のホームページをご覧ください。

: <http://eco-pro.com/>



エコびよん

(C)エコプロダクツ2009

編集後記

早いもので今年も師走を迎えました。今年を振り返るには未だ少し早いようですが、10大ニュースには事欠かない話題尽くめの1年となりました。日本の政権交代と国連での温室効果ガス25%削減宣言、さらにそれに続くようにグリーンニューディールを推し進める米国や最大の排出国である中国から温室効果ガス削減の数値目標が発表されました。12月7日からコペンハーゲンで開催されるCOP15を意識した動きと受け取れますが、温室効果ガス削減のため世界が一丸となって動き出せるか、将に正念場を迎えた感があります。

ところで、トピックスで取り上げた「エコプロダクツ展」は、温室効果ガス削減を目的に企業や団体が取り組んだ成果や製品発表の場として、また来場者や出展者の情報交流の場としてこれまで多くの方々に支持されて参りましたが、上記の背景を追い風に今年は例年にも増して盛り上がるものと期待されます。(樹)

関連リンク

[メールマガジンバックナンバー](#)

[メールマガジン登録](#)

[メールマガジン解除](#)



編集責任者 事務局長 東 幸次

東京都中央区新川 1-4-1

TEL 03-3297-5601

FAX 03-3297-5783

URL <http://www.vec.gr.jp>

E-MAIL info@vec.gr.jp
